



大貫 昭彦

歴史ロマン・オンライン鎌倉1 「コロナ禍」

2020 年 4 月 20 日



コロナ禍お見舞い

新型コロナウイルス騒ぎで、日々お過ごしの皆様こんにちは。降って湧いた外出自粛、それもいつまで続くか見通せない鬱々に、いささか気分転換の便りでもと思い、また歴史ロマンクラブの小野塚さんからの誘いもあって、「コロナ通信」をお送りすることにしました。暇に任せての便りです。不定期、気が向いた時の発信です。あしからず。

歴史上の疫病禍

世界の主な疫病流行は、大正 7 年～ 9 年のスペイン風邪と平成 21 年～ 22 年の豚インフルエンザです。スペイン風邪は

世界人口 5 億の三分の一が感染、死者数千万、いや一億人といわれた事件です。豚インフルエンザは、わが国ではワクチン接種が迅速であったので、翌年には収束しました。しかし感染者は 900 万人に及びました。

中世人を苦しめた疫病

この頃の疫病流行は、主に疱瘡（天然痘）と赤斑瘡（あかもがさ・せきはんそう・はしか）です。他に咳病（インフルエンザ）もあったようです。疱瘡は美顔との別れ、赤斑瘡は、命との別れと恐れられた病気です。

鎌倉中期の主な疫病禍

元仁元年	(1224)	12 月 26 日	疫病流行。北条義時、四角四境の鬼気祭を行う。 四境は、東六浦、南小坪、西稲村、北山内。
元仁 2 年	(1225)	3 月 5 日	京都で疱瘡流行。このため 4 月 20 日、嘉禄と改元。
嘉禄元年	(1225)	5 月 1 日	疫病による死者数千、北条政子写経供養。
同 3 年	(1227)	11 月 15 日	赤斑瘡流行。将軍頼経も発病、諸祈祷を行う。
安貞 2 年	(1228)	9 月 23 日	将軍頼経、咳病。都も地方も、公家も庶民も逃れ得ず。
★嘉禎元年	(1235)	10 月 10 日	藤原為氏（定家の孫）疱瘡発病。
同	同	同 28 日	将軍頼経、疱瘡発疹。
康元元年	(1256)	8 月	赤斑瘡流行。
建長 8 年	(1256)	9 月	将軍宗尊親王、北条時頼、時頼子女、北条長時の嫡男四歳、北条実時夫人、 みな赤斑瘡発症。
正元元年	(1259)	4 月 5 日	諸国に疫病退散を祈らせる。
文永元年	(1264)	6 月～7 月	京都で疫病流行。
同 7 年	(1270)	冬	房総諸国で疫病流行。
弘安元年	(1278)	5 月 18 日	疫病退散を祈り、興福寺に観音像を造立。

★藤原定家の日記から

藤原定家の日記「明月記」に、天然痘に罹って苦しむ孫の為氏の様子が書かれています。
…為氏の病状について、医者貞幸は大事になることはないだろうというが、少しも好くならない。一昨日から発疹がひどく、もう肌が見えないほどの状態である。医者は大丈夫というが、どうもあてにはならない。妻たちが見舞いに行き、夕方帰ってきたが、疱瘡は都と周りの町に蔓延しているらしい。まだ我が家に及んでいないのは幸いだが、恐ろしいことかぎりない。

鎌倉の神秘スポット（厄除け・疫病退散）

青梅聖天（雪ノ下）

青梅聖天は、病気で苦しむ実朝を救った社として知られています。社の梅が、時ならぬ実をつけ、救ったといわれている。

八坂大神（扇ガ谷） やさかだいじん

都市の病、特に流行病退散に威力のある祇園神社をいただいた社です。神輿は京都と同じ六角形。八坂の神輿は鉄神輿…
…といって他の社の神輿が争うのを避けたそうです。

熊野新宮（極楽寺）

極楽寺地区の鎮守の熊野新宮は、地区内の祇園神社を合わせたので、災害や疫病を祓う力が期待されます。

熊野神社（大船）

大船の熊野神社には、本殿と並んで金刀比羅社があります。流罪先の四国でなくなった崇徳天皇を祭っています。怨霊鎮めの社でもあります。

鎌倉山神社（鎌倉山）

鎌倉山神社は、山暮しの人たちの林業、農業の守り神でしたが、
災難を祓う摩利支天も祭っています。

小動神社（腰越） こゆるぎじんじや

小動神社は、腰越が宿場町だった古代からの社です。疫病退散、
国土開発、五穀豊穰を祈る神さまだったのでしょうか。

善悪はお見通し・五所神社

材木座の五所神社も庶民の信仰を集めた神社です。五所の名は、明治の初め、三島、金毘羅、諏訪、視女、八雲の五社を合わせたからです。一月の潮神祭では、神輿が材木座の浜に繰り出し、海中ざんぶと渡御します。大漁を祈って行なわれるのですが、八雲（祇園）の力で厄を祓い、操業安全を願う祭りでもあるのです。神輿を担ぐ掛け声も、伝統の天王歌です。五社の中に、「視女様」という聞きなれない神がいます。道教の解釈では、閻魔大王の持つ杖の上にいる男神、女神とされます。「人頭杖」とか「見目嗅鼻」といわれます。善悪すべてを見分け、嗅ぎ分ける神です。

材木座は、昔は貿易船で賑わった港町です。材木座や塩座、銅座、油座など、様々な同業組合が競っていました。材木の長さや油の量、重量などをごまかす悪徳は、視女様がお見通しだったのでしょうか。

境内には、疱瘡から身を守る「疱瘡ばあさんの石」、他に海中から引き揚げたという巨石を神にした「石神様」、武士の神「摩利支天像」があります。石神様はいぼとり石ともいいますが、本来は漁師の守り神でしょう。摩利支天は矢をつがえ、猪に乗る三面八臂、気力充実した石仏です。戦前は出征兵士が、銃弾に当たらないようにと祈った像です。



五所神社



五所神社 疱瘡ばあさんの石

